

オンラインスタディーツアー 「世界で働くってどういうこと？」 報告書

一般社団法人NTDs Youthの会
2025年3月15日（土）16日（日）



目次

- 01 実施概要
- 02 実施内容
- 03 事後アンケート
- 04 予算



01

实施概要

概要

主催

一般社団法人NTDs Youthの会
スタディーツアー事業部

開催日時

1dayイベントを、以下2日程で開催：

- 2025年3月15日（土） 13:00～18:00
- 2025年3月16日（日） 13:00～18:00

開催方法

オンライン（Zoom）

概要

参加人数

定員 各日 15名 (計 30名)

応募資格

- ・大学生以上 (2025年度4月入学見込み者を含む) であること
- ・全てのイベントに参加できること (途中退席不可)

応募方法

インターネットでの公募 (Peatix)

参加費用

無料

目的

- 世界を舞台に活躍する**登壇者との交流**を通じて、将来的に**グローバルヘルス分野に関わるきっかけ**を提供し、キャリアの選択肢を広げる
- 他人と協働して課題解決に取り組み、世界が直面する課題を**当事者意識**を持って捉える機会を提供する
- 「**世界で働く**」を切り口に、疾患群が顧みられないラオスの**構造的・社会的**原因を見つけ、NTDsやラオスへの**認知度、関心**を高める

裏目的

- 来期開催予定の**渡航型スタディーツアー**の前段階とし、
現地渡航に関心を持つ層を増やす
- NTDs Youthの会およびNTDsの認知度向上
(今後、定例のイベントとしての継続を見据える)

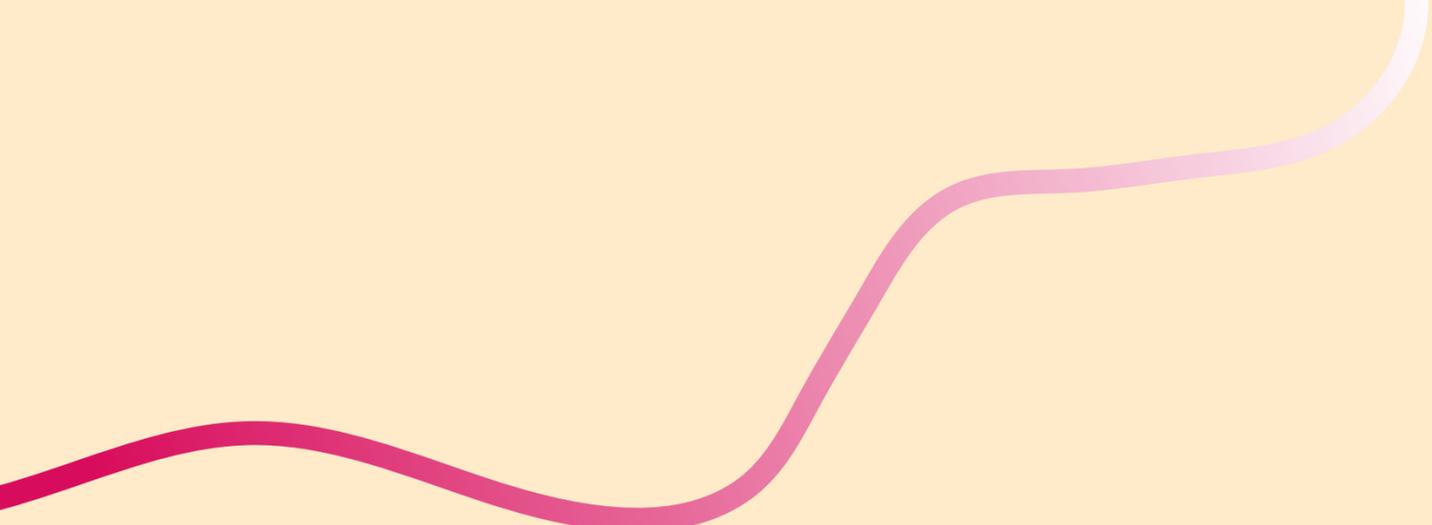
構成

第一部 キャリアパート「『世界で働く』選択肢を広げよう」

世界を舞台に活躍する登壇者と、キャリア設計や実際の仕事内容について参加者が質問・交流する機会を提供する。多様なバックグラウンドを持つ登壇者と、少人数の参加者グループで交流することで、より近い距離での繋がりを得る時間を創出する。

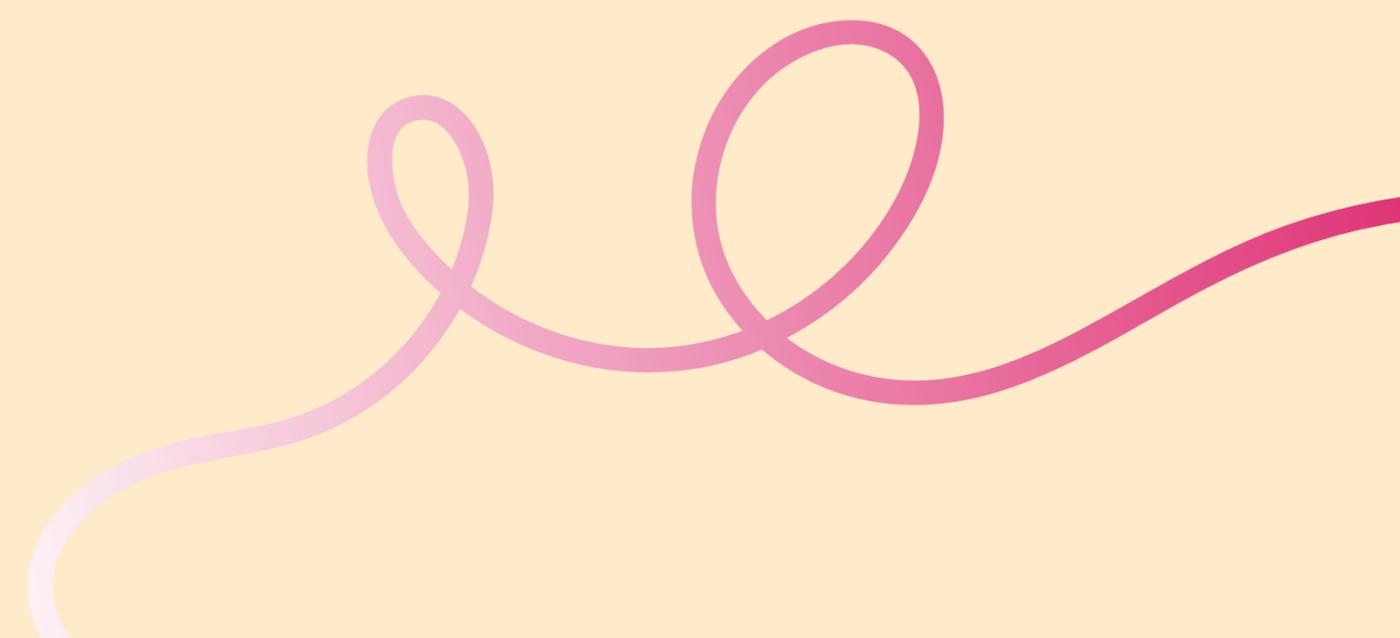
第二部 ワークショップパート「ラオスのNTDsについて考えてみよう」

ラオスで実際に存在するNTDsを取り上げ、他人と協働で課題解決に取り組むワークショップを行う。ラオスのNTDsや社会問題に対する知識や関心を深め、現地渡航への興味を喚起する。



02

实施内容



タイムテーブル

13:00-13:30

オープニング

13:30-14:30

第一部：「世界で働く」という選択肢を広げよう

14:30-14:45

休憩

14:45-17:40

第二部：ラオスのNTDsについて考えよう

└Part 1：NTDsと狂犬病に関するレクチャー

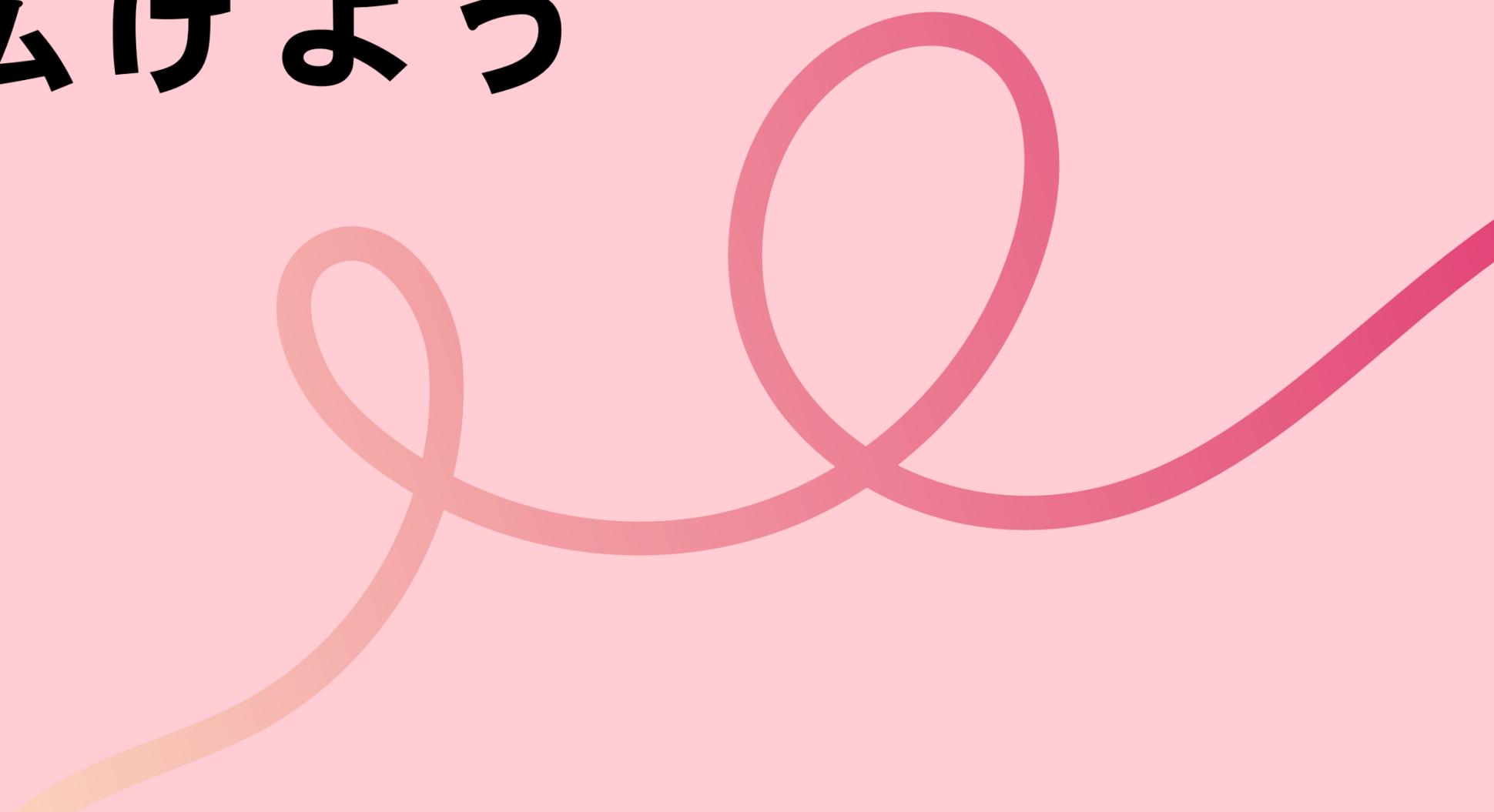
└Part 2：ロールプレイング型ワークショップ

17:40-18:00

クロージング

第一部

「世界で働く」という 選択肢を広げよう



Part:01 イントロ

Part:02 登壇者紹介

Part:03 キャリア座談会(7分x5回転)

3月15日 登壇者



茅野 龍馬

世界保健機関 (WHO)
健康開発総合研究
センター



高松 由基

長崎大学
熱帯医学研究所
ウイルス学分野
准教授



轟木 亮太

一般社団法人
NTDs Youthの会
代表理事



彦根 麻由

長崎大学
熱帯医学研究所
ケニア拠点
助教



山内 祥平

IQVIA
ソリューションズ
ジャパン
合同会社
Real World Evidence
Solutions

3月16日 登壇者



石上 盛敏

国立国際医療研究
センター研究所
熱帯医学・マラリア
研究部



櫻庭 唱子

厚生労働省
健康・生活衛生局
感染症対策部
感染症対策課



鈴木 節子

国立国際医療
研究センター
国際感染症センター
研究員



高橋 健介

長崎大学病院
高度救命救急センター
救急・国際医療支援室
助教



古瀬 祐気

東京大学
新世代感染症センター
教授

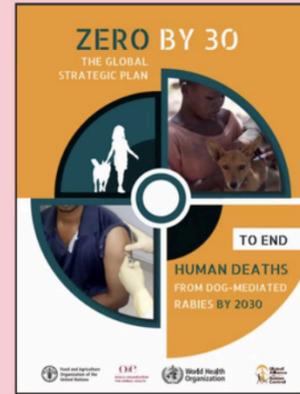
第二部

ラオスのNTDsについて考えよう



- Part:01 NTDsと狂犬病について
- Part:02 ロールプレイング
- Part:03 最終発表

予防と対策 WHO



2030年までに犬から伝播する狂犬病による死亡ゼロ

<https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/272756/9789241513838-eng.pdf?sequence=1>

持続可能な開発目標の達成が顧みられない状態を終わらせる：顧みられない熱帯病のロードマップ

2021-2030

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240010352>



組織：製薬会社

どんな分野に貢献したいか

ワクチンの普及（目標1：リスクを減らす。公平で手頃な価格の医療、薬剤、ワクチンへの迅速なアクセスの実現）

どんな提案ができるか

- 世界的な現状
ワクチンへのアクセスが難しい状況
- 提案内容
・X国で研究所や工場をつくる
・飼犬への予防ワクチン接種、予防ワクチン、暴露後ワクチンプログラム（無料ある）

実現可能性と障壁

- 実現可能性
製薬会社としてのPR、CSR 将来的な販路を確保することで投資（工場建設、製品）回収可能
- 障壁
費用（営利企業である製薬会社が無料あるいは低価格で商品（ワクチン）を提供することが現実的なのか）

この組織に最優先で予算をつけるべき理由

- 理由
もの（ワクチン）自体がないと始まらない！



組織：研究チーム

どんな分野に貢献したいか

専門知識を生かして公衆衛生の向上に貢献する

どんな提案ができるか

- 世界的な現状
・農村部に多い病気で年齢層は若年層が多い
・狂犬病死亡者の数はアジア
・ワクチン接種の意欲は費用とアクセスの悪さが大きな問題となっている
- 提案内容
・安価で安定性が高く、接種しやすいワクチンの開発（経口ワクチン）
・狂犬病に患っている犬が多い地域や貧困地域、接種率を調査することで、ワクチン接種地域の優先順位をつける

実現可能性と障壁

- 実現可能性
・人員
NGO団体の力、現地の有識者に手伝ってもらう（現地に馴染みのある人）
・費用
協賛してくれる団体から調達
- 障壁
→クラウドファンディング
→活動に賛成してくれる財団などを探す
・アクセスの悪さ
→トヨタなど発展途上国支援に力を入れている企業と連携
→日本企業の威信にもなるため、今後に繋げることが出来る

この組織に最優先で予算をつけるべき理由

- 理由
・研究を行うことにより、病気の原因を特定し、より効果的な予防法や治療法を見出すことが可能となる。そのため、研究が狂犬病対策の基礎となるため、優先的に予算をつけるべきだと考えた。
・現時点でも有効な治療法がワクチン接種であるため、より良いワクチンを普及させることが人々と犬の健康に繋がるから。また、流行源を見つけて優先順位をつけ、効果の良い対策を行うことができるから。



組織：NGO

どんな分野に貢献したいか

多様な背景を持つ人材を活かして、教育現場の指導者育成、親の狂犬病に対する知識の取得など若者に対する教育の分野で貢献したい。

どんな提案ができるか

- 世界的な現状
40パーセントが15歳未満 → 無知な子供が接触or放置の現状
- 提案内容
専門知識を有する教育者の育成
親に対する教育の実施（特にSNSが有効でない場合）
地域でのワークショップ等

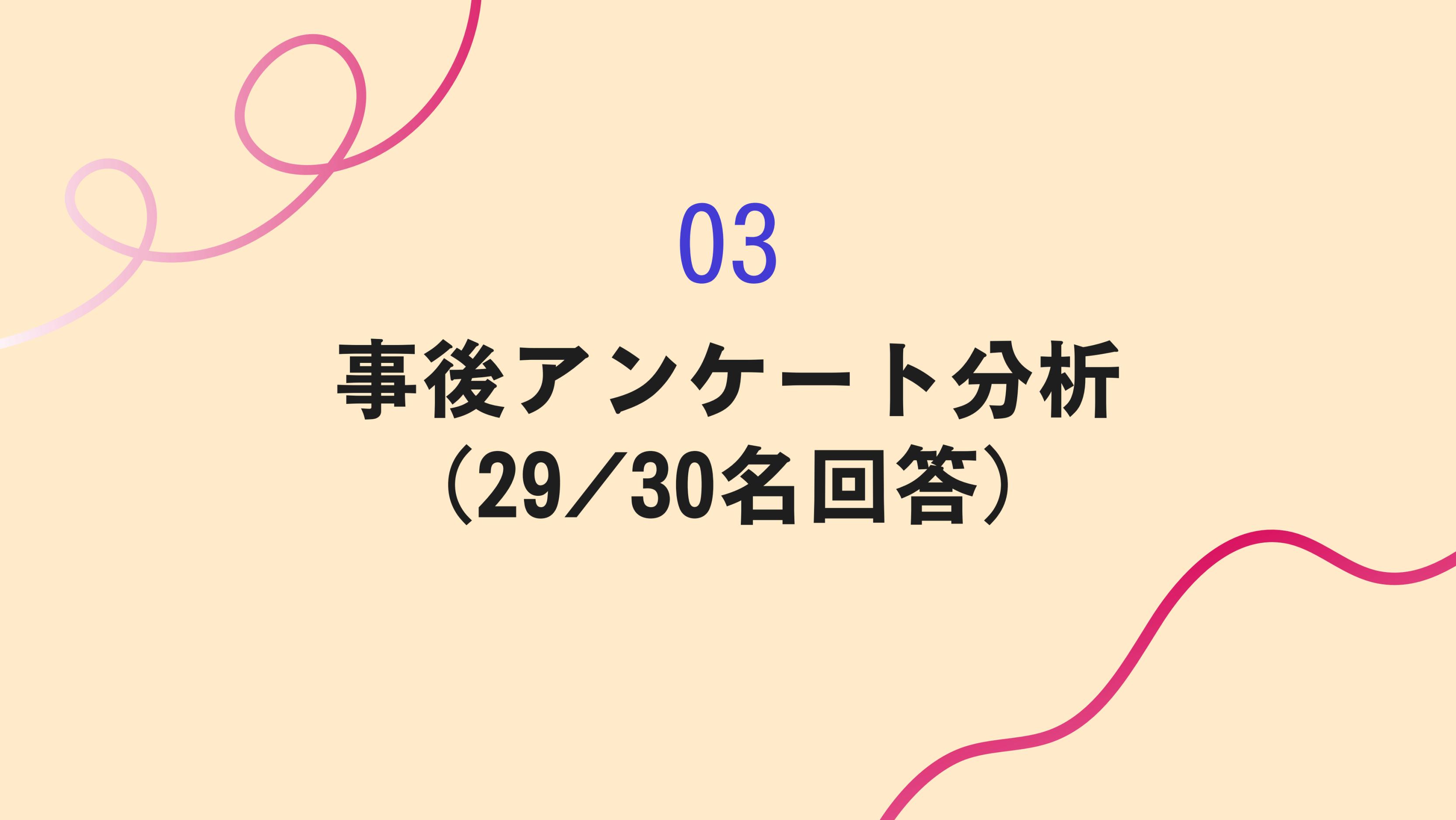
実現可能性と障壁

- 実現可能性
過去のデング熱での提言活動の実績をもとに実現可能
- 障壁
SNS：SNSに関するj s s

この組織に最優先で予算をつけるべき理由

- 理由
教育：NGOの強み
→世代間で伝えることができる（伝播性、長期見込み）
SNS：一時的国際機関の強み

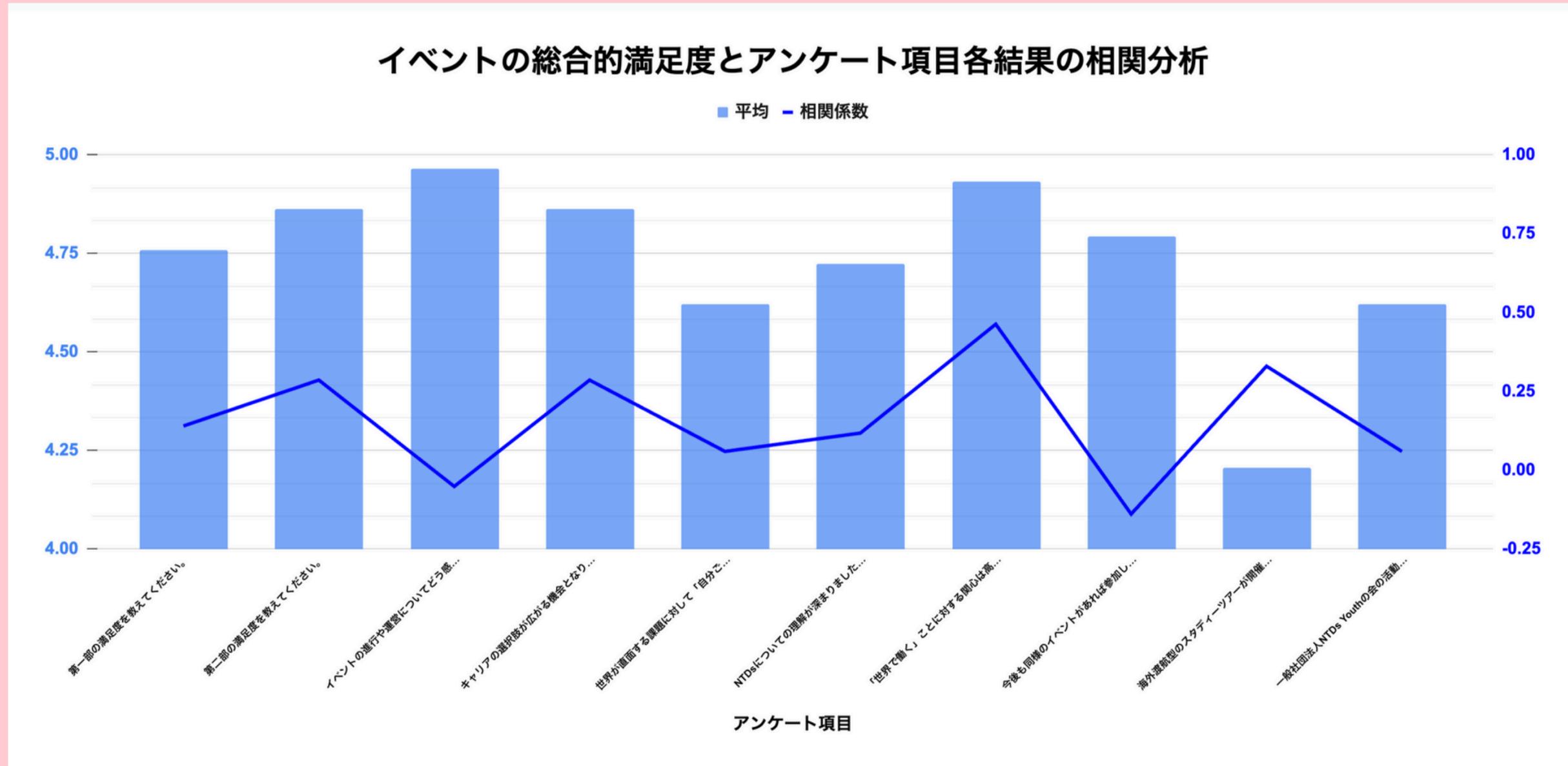




03

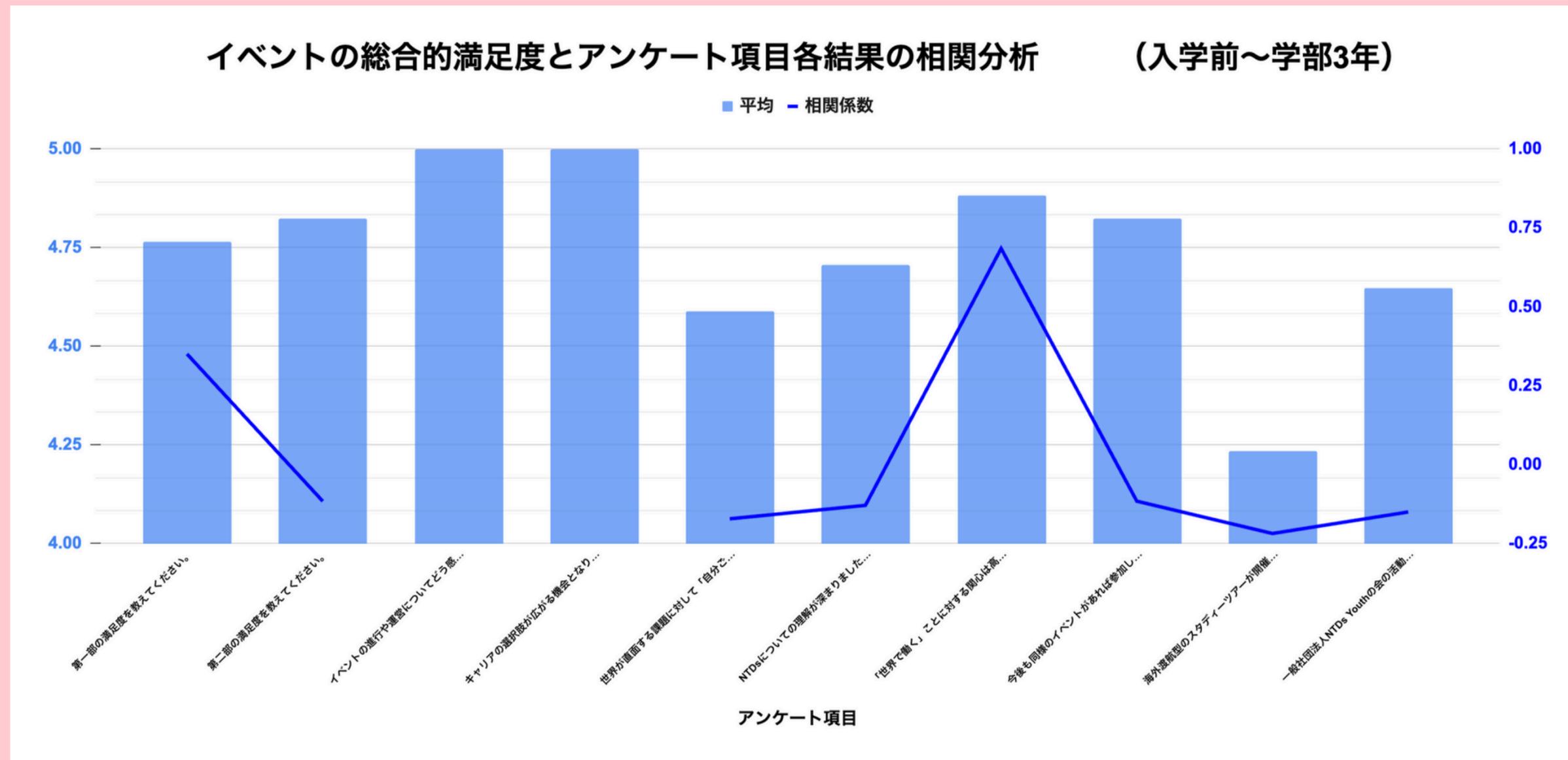
事後アンケート分析
(29/30名回答)

イベントの総合的満足度とアンケート項目各結果の相関分析



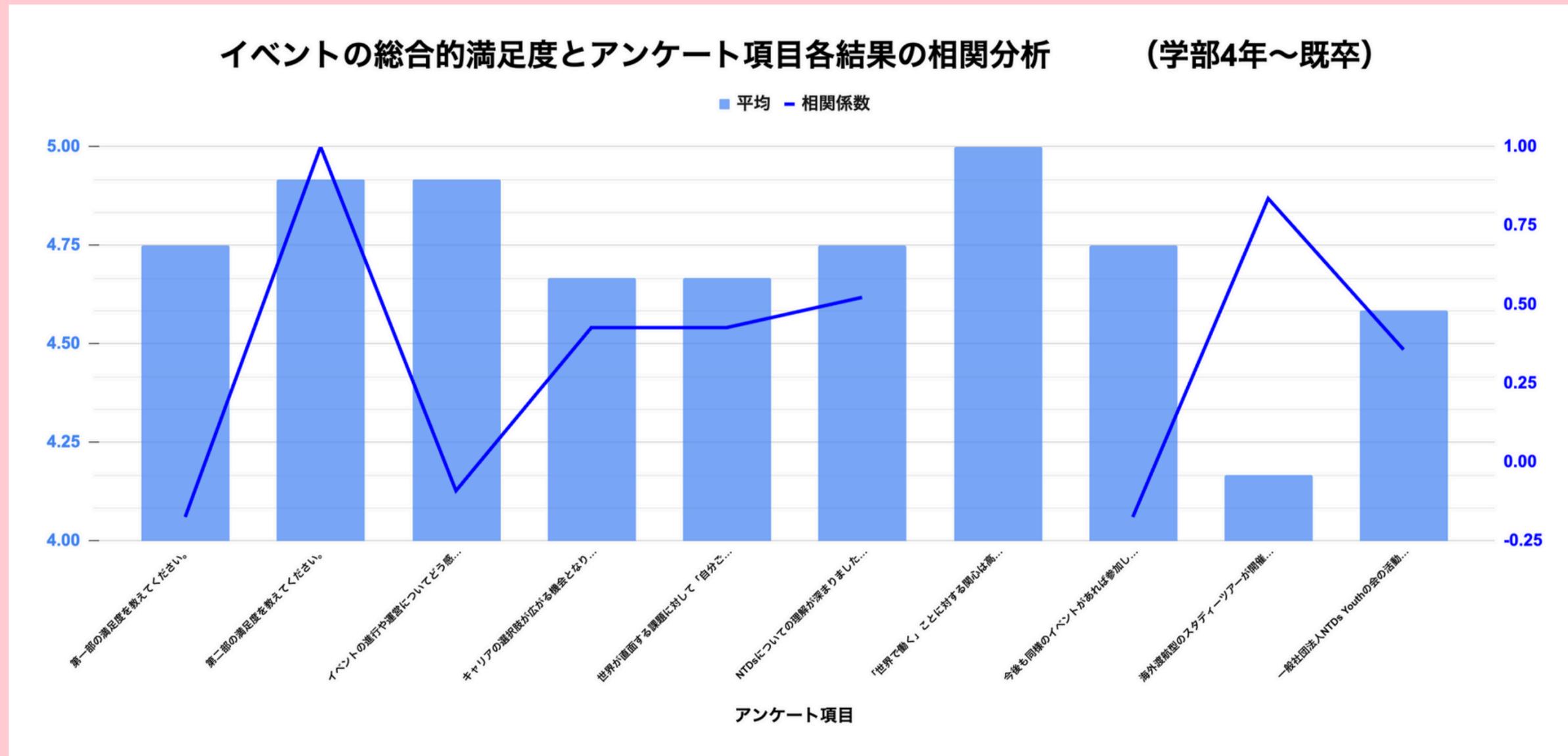
イベントの総合的満足度とアンケート項目各結果の相関分析

低学年（入学前～学部3年） 17/29人



イベントの総合的満足度とアンケート項目各結果の相関分析

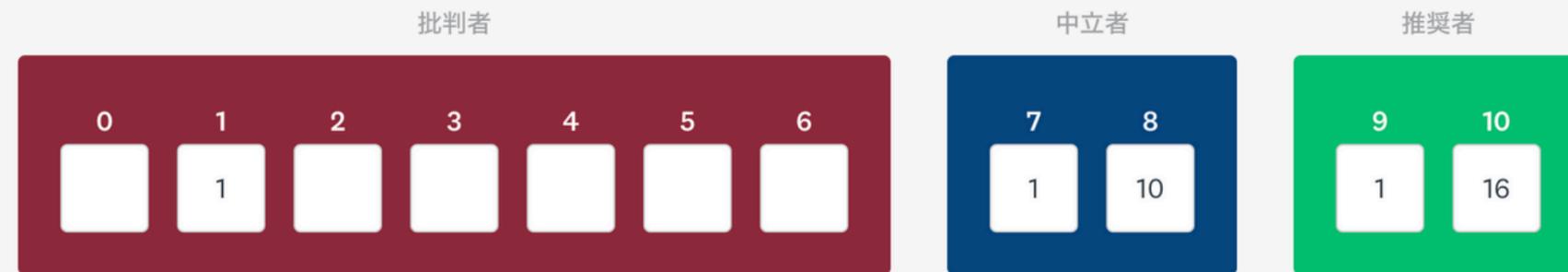
高学年（学部4年～既卒） 12/29人



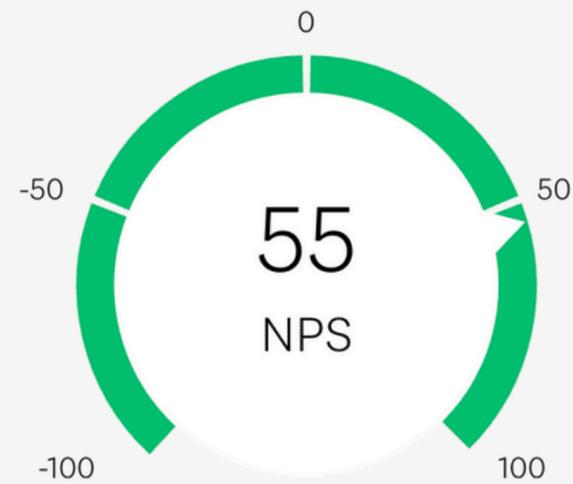
イベントの総合的満足度とアンケート項目各結果の相関分析

NPS

あなたのNet Promoter Score® (NPS) は？各スコアを受け取った回数を入力して調べてみましょう。



あなたのスコア:

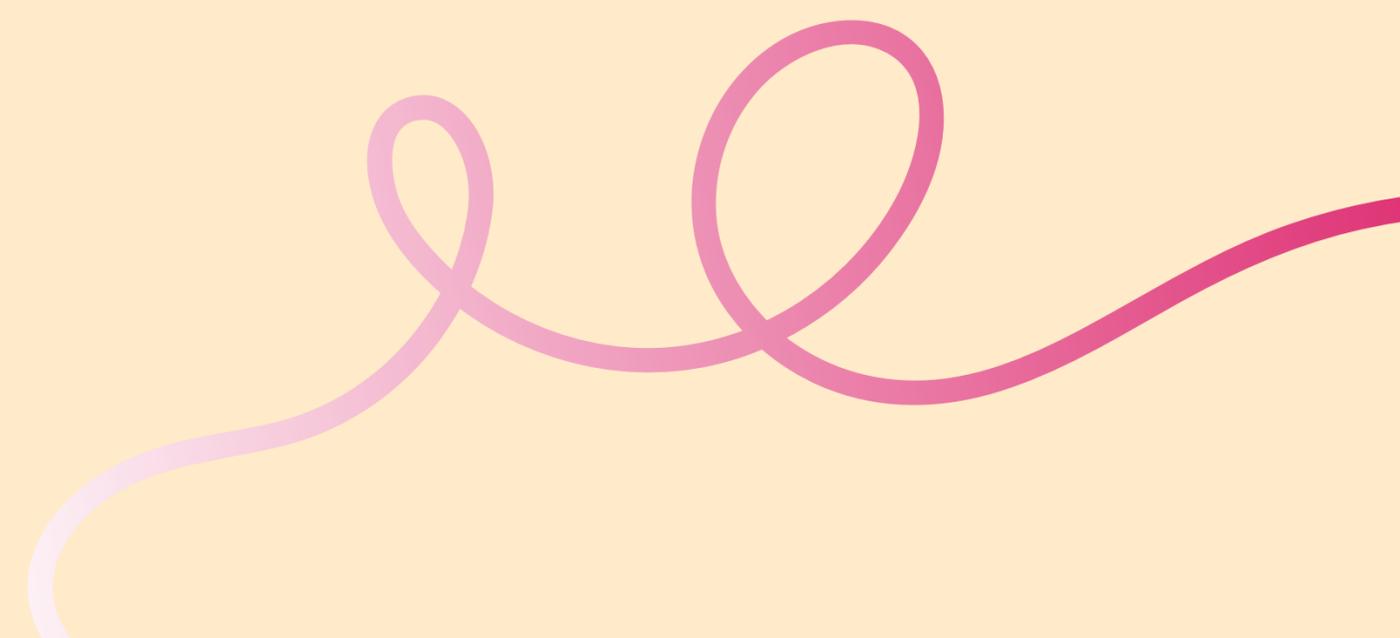


Net Promoter ScoreおよびNPSは、Bain & Company, Inc.、Fred Reichheld、Satmetrix Systems, Inc.の登録商標です



04

その他



その他の成果

- 正会員 7名
- LINE友達 参加者の半分程度
- インスタ 参加者の1/3程度

無相と内田は、各方面にたくさんたくさん学びがありました。

事業部として一致団結して、本当に良いイベントになったと思います...!